

令和 3 年 8 月 19 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H01946

研究課題名(和文) 日本列島における鷹・鷹場と環境に関する総合的研究

研究課題名(英文) The Research on Hawks, Hawking Grounds and the Environment of Japanese Islands

研究代表者

福田 千鶴 (FUKUDA, CHIZURU)

九州大学・基幹教育院・教授

研究者番号：10260001

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,100,000円

研究成果の概要(和文)：日本列島上において、鷹と人間は長い共生の歴史を歩んできた。また、5世紀の古墳時代から江戸幕府瓦解の19世紀後半に至るまで、鷹狩は権力と深く結び付きながら、連綿と続けられてきた。そこには、日本の風土や社会のなかで地域・時代・階層、あるいは狩猟の目的等にあわせて独自に発展してきた固有の歴史が存在する。本研究課題では、それらの通史的な展開を検討するとともに、近世になって全国的に設置された鷹場が環境に与えた影響やそこでの人々の生活について検討し、この二次環境としての鷹場が幕末に失われることで、近代化過程における環境破壊や生態系の変化といった問題が引き起こされるという重要な意義を問題提起した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、日本史を貫く重要な要素でありながら等閑視されてきた鷹狩の歴史を紐解き、自然界のタカが人間によって鷹という人為的存在となり、犬や馬とともに人間と長く共生してきた道程を日本列島上にフィールドを限定して解明した。とくに江戸時代に全国的に設置された鷹場が自然環境に与えた影響の大きさや中世から近世にかけて、鷹が鷗・隼から大鷹へと変化し、獲物も雉から鶴へと変化する意義などを新たに解明した。

研究成果の概要(英文)：On the Japanese archipelago, hawks and humans have a long history of symbiosis. From the kofun period of the 5th century to the late 19th century of the Edo shogunate, falconry has been deeply linked to power. There is a unique history that has developed independently according to the region, the age, the hierarchy, and the purpose of hunting, etc. in the climate and the society of Japan. In this research subject, we examined their historical development, examined the impact of takaba installed nationwide in the modern era on the environment, and the lives of people there, and raised the important significance that the loss of this secondary environment at the end of the Edo era caused problems such as environmental destruction and ecosystem changes in the modernization process.

研究分野：日本近世史

キーワード：鷹 鷹狩 鷹場 環境 生態系

1. 研究開始当初の背景

日本は四季のある、自然豊かな国として知られている。とくに前近代までの自然環境は自然に恵まれた循環型と考えられてきた。しかし、実際には18世紀以降の新田開発のピーク以降、「水田リスク社会」に陥っており、「環境破壊」に陥りやすい持続困難型社会であった。ならば、自然に恵まれた豊かな循環型社会にみえる江戸時代の生態系には、二次的な存在（「水田リスク社会」）とその影響を受けない残余の生態系の条件を維持させる環境因子が存在しており、後者の解明ことが次に取り組む課題として浮上する。本研究は、この残余の生態系の条件として、鷹および鷹場に注目して研究を進めることを課題として取り組んだ。

2. 研究の目的

今回、「日本列島における鷹・鷹場と環境に関する総合的研究」を研究テーマとした目的は、日本列島において鷹を頂点とする生態系を維持するための環境条件が、いかなる相互作用のもとに保全されていたのかという問題を解明するために、江戸時代の諸藩に設定されていた鷹場に注目し、鷹場環境を構成する個々の条件（環境因子）を政治・制度・生活・文化・空間などの視点から総合的に検討し、生物多様性を守り、持続可能な社会を維持するための確かな「知」を歴史学の立場から発信していくことにあった。

ここでいう鷹とは、生態系の頂点に位置することから、すべての生き物を象徴した概念として用いている。また、鷹場は、御猟場、御留山など、生き物を確保するために設定された禁猟（漁）区や立ち入り禁止区域を含みこんだ概念として用いる。

本研究では、鷹を頂点とする生態系のなかから、どのような生き物が保護や増殖の対象となり、自然保護地域に類する鷹場が設定され、その結果、増殖しすぎた生き物たちの管理がなされていたのか、という問題を明らかにすることで、人が環境に与えた影響、また逆にその環境変化から生じた人の生活や文化活動、政治による政策や制度など、相互作用の歴史的過程を明らかにし、多様な環境因子をさぐることで、現代社会の環境を考えるうえでの歴史学からの学問「知」を発信していく必要があると考えた。

3. 研究の方法

鷹の歴史は世界的に古く、日本でも権力者の力を誇示する象徴として古代天皇の鷹狩が知られ、狩猟を重要な職能の一つとしていた中世武士の狩猟文化となって展開しました。中世武家社会では、鷹を支配することが領主権の一つとなり、中世領主たる武家の文化と深く結びついていきました。そこで、伝統・文化班は、そうした古代以来の鷹をめぐる文化的営みが、いかに継承されて伝統化し、王権・領主権との結びつきを維持しつつ、伝統的な「知」として近世社会に広く伝播していくのか、といった問題を検討した。

次に、鷹場を通しての環境支配の具体相を解明するために、東日本班と西日本班を設定します。二つに分ける理由は、日本列島の植生は基本的に東の落葉広葉樹林帯、西の照葉樹林帯として分布するからです。換言すれば、東と西の鷹場では異なる環境因子を条件として自然環境が保全されたと考えられますので、各班でそれらの特性（東西の相違点）を明らかにしつつ、個々の鷹場を分析することを課題とした。

さらに、鷹場の範囲は城下町を中心に山間部に及ぶ広範囲に設定されていた。鷹場は決して村落だけの問題ではなく、都市、街道、山林を広く含む領域であり、人の生活や環境に与えた影響の大きさは一目瞭然である。そこで、生活・空間班では、鷹・鷹場が人や環境に与えた影響を多角的に検討した。鷹匠や鷹関係役人の身分・格式、狩猟によって得られた諸鳥や皮革の流通・献上儀礼、鷹場という空間が都市・村落・山林を覆うように重層的に設定されていた意味など、従来の近世史研究に鷹・鷹場の視点を入れることで、近世の全体像を再構築しようと試みた。

4. 研究成果

『鷹・鷹場・環境研究』1～5号を刊行し、論文22本、研究報告3本、書評/文献紹介7本、史料紹介4本という研究成果をあげた。そのうち論文9本は英文論文として公表しており、国際的にも研究成果を発信した。すべて九州大学学術情報リポジトリに掲載し、オープンアクセスを可能としている。

『ニューズレター』1～10号を刊行してホームページに掲載し、2021年3月に総集合同して刊行した。これも九州大学学術情報リポジトリに掲載し、オープンアクセスを可能としている。

福田千鶴・武井弘一編『鷹狩の日本史』（勉誠出版、2021年2月）を出版し、上記の学術的成果を広く一般社会に向けても発信した。18章と10のコラムが掲載されている。これは日本史における鷹狩の通史としても初の成果であり、当該分野における基礎研究としての学問「知」を提供することができた。各章の学術的意義は序章において概説している。

さて、上記のような成果に示された本研究の意義を以下に簡単にまとめておく。

(1) 総合的な評価

本研究は、日本史を貫く重要な要素でありながら等閑視されてきた鷹狩の歴史を紐解き、自然界のタカが人間によって鷹という人為的存在となり、犬や馬とともに人間と長く共生してきた道程を日本列島上にフィールドを限定して解明してきた。言い換えるならば、現在ではヒトが生態系の頂点にいることは言うまでもない。近世の場合も同じようにヒトが頂点にいたが、そのヒトのなかで、しかも支配者クラスである上級武士が飼っている生き物がいた。それどころか、その生き物を飼うために、農村ではいろんな規制もされていた。それが鷹であり、鷹を維持するための環境＝鷹場であった。

要するに、鷹と鷹場に注目することで、動物とヒトとの関係について歴史学的な観点からの共同研究を進めてきたわけだが、この研究成果は、今後、さらに獣害問題や愛玩動物などの関係へと研究を広げていくうえでの大きなパースペクティブを示すことができたと考える。また、江戸時代に全国的に設置された鷹場が自然環境に与えた影響が無視できないことが本研究で立証され、その二次的な環境のもとで人々がいかなる生活を営んでいたかという点にまで踏み込んで検討したところは大きな成果と評価できる。

(2) 進展した研究成果と課題

計画初年度では、鷹場が全国どのように存在していたのかを解明することを取り組み、情報の集約に努めた。その結果、全国ほとんどの諸藩にも鷹場が存在していることがわかった。しかし、地域ごとの多様性や時代性があることもわかり、その全体像を提示する方法は難題であった。今後引き続き検討し、情報の共有化をはかる必要がある。

次に、鷹の生態学的特性や産地の違いをふまえて日本の鷹狩文化を理解できるようになった点で、鷹狩研究を大きく前進させたと評価できる。具体的には、ヨーロッパやアラブの諸国では「ハヤブサ」重用の文化であり、日本でも古代・中世では天皇の鷹狩で鶴・隼が使われていたが、近世日本では大鷹を朝鮮半島や全国から調達できる制度を整え、「大鷹を愛でる文化」となった。とくに鶴を取ることでできる大鷹が重要視されたが、鷹で鶴を取る鷹狩の技術は難しく、世界的にみても特筆すべき狩猟方法であることがわかった。こうした理解が、本研究により共有できるようになったのは大きな成果であった。

第三に、鷹場といえば関東周辺地域に設定された將軍家の鷹場や徳川三家(尾張・紀伊・水戸)や有力諸大名が拝借した鷹場の研究が進められてきた。本研究では、その鷹場研究の見直しを大きく進めるとともに、全国に設置された諸藩の鷹場の存在やそこで生活する人々の生業について解明し、さらに環境史の問題へとつなげた。とくに尾張藩の上級家臣である横井家鷹場をめぐり、山崎久登が鷹場領主論という新たな問題提起をしており、今後の研究の展開が期待できる。

第四に、鷹狩文化や鷹の献上は幕末まで続けられていたが、やはり鷹の棲息環境と新田開発の競合問題がクローズアップされた。確かに、近世前期に比べれば鷹狩自体の縮小という側面もあるだろうが、鷹が捕獲される地域も縮小していることが判明した。藩による捕獲が地域に何をもたらしたか。環境史的な視点も含めてより明らかにしていく必要がある。

最後に、今回の課題では日本列島上にフィールドを限定し、かつ前近代に時代を絞ったが、今後は越境する鷹狩文化という視座で、世界史的な比較・検討をしていくことが大きな課題となることを指摘しておきたい。

なお、鷹・鷹場・環境に関する研究としてホームページ上に文献データベース 1374 件を掲示し、共同研究の便宜をはかってきた。本研究を終了するにあたり、ホームページは閉鎖されるので、今後はデータを精査したうえで報告書を作成し、九州大学の学術情報リポジトリでの公開を検討していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計93件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 50件）

1. 著者名 森田喜久男	4. 巻 -
2. 論文標題 古代日本の鷹狩	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 19-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中澤克昭	4. 巻 -
2. 論文標題 中世日本の鷹狩	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 43-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井弘一	4. 巻 -
2. 論文標題 近世日本の鷹狩	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 65-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田千鶴	4. 巻 -
2. 論文標題 鷹の種類と調教	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 97-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久井貴世	4. 巻 -
2. 論文標題 鷹狩をめぐる江戸時代のツルの「保護」と人との関わり	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 113-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東幸代	4. 巻 -
2. 論文標題 琵琶湖の水鳥猟と鷹場	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 127-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江藤彰彦	4. 巻 -
2. 論文標題 山林原野の明治維新と御猟場	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 92-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東昇	4. 巻 -
2. 論文標題 大洲藩の狩 御鷹野場と生業	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 149-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎久登	4. 巻 -
2. 論文標題 尾張藩家臣の鷹場 鷹場は人々の生活にどう関わったか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 160-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井弘一	4. 巻 -
2. 論文標題 琉球の鷹狩儀礼と生態系	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 110-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 来見田博基	4. 巻 -
2. 論文標題 鳥取藩「湖山鴨堀」と周辺環境	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 136-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部浩二	4. 巻 -
2. 論文標題 越後国村上藩主松平直矩の鷹と鷹狩	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 139-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田千鶴	4. 巻 -
2. 論文標題 「サダ六とシロ」の物語	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 173-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 越坂裕太	4. 巻 -
2. 論文標題 「御鷹」の献上・下賜	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 179-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤實久美子	4. 巻 -
2. 論文標題 「御鷹」拝領と「御鷹二而捉飼」 鳥類の時献上 武鑑を糸口に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 192-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤實久美子	4. 巻 -
2. 論文標題 鷹書と出版文化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 308-324
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎森進	4. 巻 -
2. 論文標題 松前藩と鷹鳥屋場知行	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 197-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兼平賢治	4. 巻 -
2. 論文標題 鷹・馬・犬からみた生類憐みの令	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 89-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兼平賢治	4. 巻 -
2. 論文標題 將軍の鷹と馬	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 211-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野渡一耕	4. 巻 -
2. 論文標題 盛岡藩の鷹と巢鷹の捕獲	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 214-225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 来見田博基	4. 巻 -
2. 論文標題 参勤交代にみる鷹の役割	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 226-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大賀郁夫	4. 巻 -
2. 論文標題 南九州における鷹巣山について 米良山を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 229-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大坪舞	4. 巻 -
2. 論文標題 鷹詞と有職故実	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 241-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野裕史	4. 巻 -
2. 論文標題 鷹狩の絵画 近世初期における鷹狩への眼差し	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 255-274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤昭弘	4. 巻 -
2. 論文標題 鍋島勝茂と鷹	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 275-284
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀田幸義	4. 巻 -
2. 論文標題 鷹匠として生きる武士たち	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 285-304
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩淵令治	4. 巻 -
2. 論文標題 江戸における鷹匠の交流	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 305-307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相馬拓也	4. 巻 -
2. 論文標題 越境する鷹狩文化 中央ユーラシアを駆ける鷹狩と鷹匠の世界	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹狩の日本史	6. 最初と最後の頁 325-328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田喜久男	4. 巻 5
2. 論文標題 Japanese Falconry in Ancient Times	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 69-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中澤克昭	4. 巻 5
2. 論文標題 Japanese Falconry in the Medieval Ages	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 83-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武井弘一	4. 巻 5
2. 論文標題 Japanese Falconry in the Edo Period	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 95-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福田千鶴	4. 巻 5
2. 論文標題 Special Edition Preface: A History of Japanese Falconry	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 57-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福田千鶴	4. 巻 5
2. 論文標題 Varieties of TAKA(taka 鷹) and Their Training in the Edo period	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 109-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤貫久美子	4. 巻 5
2. 論文標題 A Study of Kawanabe Toiku (Kyosai) 's Ehon Taka Kagami	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 127-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水野裕史	4. 巻 5
2. 論文標題 Implication of Japanese Hawks and Falconry Art	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 119-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎久登	4. 巻 5
2. 論文標題 鷹場領主と人材登用－嘉永4年の改革を中心にして－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 久井貴世	4. 巻 5
2. 論文標題 鷹狩をめぐる江戸時代のツルと人との関わり ツルの「保護」、人馴れ、人との軋轢の観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 越坂裕太	4. 巻 5
2. 論文標題 甲斐柳沢家の巢鷹献上 御用鷹としてのハイタカの献上事例に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 相馬拓也	4. 巻 10
2. 論文標題 モンゴル西部カザフ騎馬鷹狩調査第2次隊 (2020年2月) 調査報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境NEWS	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 籠橋俊光	4. 巻 10
2. 論文標題 仙台藩重臣の狩猟と野場	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境NEWS	6. 最初と最後の頁 5-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石橋美里	4. 巻 10
2. 論文標題 飼養される鷹の時の進行について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境NEWS	6. 最初と最後の頁 9-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大坪舞	4. 巻 10
2. 論文標題 戦国期における鷹狩 足利將軍家・細川吉兆家・公家を中心として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 越坂裕太	4. 巻 4
2. 論文標題 長門萩毛利家における隼献上の位置 幕藩関係における「内献上」の構造化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中野渡一耕	4. 巻 4
2. 論文標題 盛岡藩における巢鷹捕獲 三戸町小笠原文書「巢鷹御用覚書帳」の分析から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 17-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東 昇	4. 巻 4
2. 論文標題 伊予大洲藩主の狩、御鷹野場と生業	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎久登	4. 巻 4
2. 論文標題 鷹場領主と地域・環境 幕末期の横井家鷹場を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 56-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福田千鶴	4. 巻 4
2. 論文標題 豊臣秀吉の鷹匠とその流派	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 57-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡部浩二	4. 巻 4
2. 論文標題 越後村上藩主松平直矩の鷹・鷹狩と動物	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東 幸代	4. 巻 4
2. 論文標題 彦根藩「御鷹場」と近江国の鳥獵	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 83-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎久登	4. 巻 6
2. 論文標題 將軍鷹野御成と江戸町方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大坪 舞	4. 巻 8
2. 論文標題 近世後期公家蔵書にみる学知の形成 立命館大学図書館西園寺文庫西園寺賞季旧蔵書を手がかりとして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平安文学研究・衣笠編	6. 最初と最後の頁 100-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田千鶴	4. 巻 21
2. 論文標題 九月十六日付加藤主計頭留守居宛豊臣秀吉朱印状について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 織豊期研究	6. 最初と最後の頁 126-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久井貴代	4. 巻 54
2. 論文標題 歴史資料から探る江戸時代のツルと人との関わり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒトと動物の関係学会誌	6. 最初と最後の頁 30-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野裕史	4. 巻 54
2. 論文標題 日本美術に現れた鳥獣表象 鷹を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒトと動物の関係学会誌	6. 最初と最後の頁 22-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相馬拓也	4. 巻 54
2. 論文標題 若手研究が描く「ヒトと動物の関係学の未来と展望」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒトと動物の関係学会誌	6. 最初と最後の頁 10-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野裕史	4. 巻 36
2. 論文標題 豊臣秀吉「大鷹野」と鷹狩図屏風	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鹿島美術財団年報	6. 最初と最後の頁 236-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久井貴代	4. 巻 -
2. 論文標題 古文書の「丹頂」からタンチョウを探る：「歴史鳥類学」から解明する江戸時代のツルの歴史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 遺伝子から解き明かす「鳥」の不思議	6. 最初と最後の頁 213-234
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田 千鶴	4. 巻 20
2. 論文標題 豊臣政権期における鷹と鷹狩の位相	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 織豊期研究	6. 最初と最後の頁 35-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤實久美子	4. 巻 3
2. 論文標題 河鍋洞郁（暁斎）『絵本鷹かゝみ』の史料学的考察 文久2（1862）3月の校合摺の紹介を兼ねて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伊藤昭弘	4. 巻 3
2. 論文標題 17世紀佐賀藩における鷹と鷹場	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山崎久登	4. 巻 3
2. 論文標題 藩士の鷹場と地域 尾張藩士横井家を事例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丸山大輝	4. 巻 3
2. 論文標題 近世初期における鷹の調教と鶴取 池内吉長の鷹術を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 53-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福田千鶴	4. 巻 3
2. 論文標題 Characteristics of Japanese Falconry in the Late 16th Century:The Traditonalization of Falcons Catching C	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 79-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Victoria Westin	4. 巻 3
2. 論文標題 The Boston College Eagle:Kano Antecedents 案dModern Meanings	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 99-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水野裕史	4. 巻 3
2. 論文標題 狩野派《放鷹狩獵繪卷》西園寺家蔵	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 109-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 来見田博基	4. 巻 3
2. 論文標題 「湖山鴨堀」と周辺環境の変化に関する詩論 「高草郡湖山村御鴨堀絵図」の紹介	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 115-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田喜久男	4. 巻 3
2. 論文標題 書評・三保忠夫『鷹狩と王朝文学』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 125-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡部浩二	4. 巻 3
2. 論文標題 書評・中澤克昭『肉食の社会史』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 129-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三保忠夫	4. 巻 3
2. 論文標題 書評・二本松泰子『鷹書と鷹術流派の系譜』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 133-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 越坂裕太	4. 巻 3
2. 論文標題 内閣文庫所蔵『近代雑記』所収「大猷院様御内々之書付」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福田千鶴	4. 巻 4
2. 論文標題 豊後日出城主木下遠俊『慶長日記』にみる鷹狩記事	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境NEWS	6. 最初と最後の頁 3-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 相馬拓也	4. 巻 4
2. 論文標題 日本ワシタカ研究センター訪問記	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境NEWS	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丸山大輝	4. 巻 5
2. 論文標題 韓国調査報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境NEWS	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田喜久男	4. 巻 2
2. 論文標題 日本古代の王権と鷹狩	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀田幸義	4. 巻 2
2. 論文標題 仙台藩の鷹匠に関する基礎的研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 17-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大坪舞	4. 巻 2
2. 論文標題 近衛前久が継承した鷹の言説	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東昇	4. 巻 40
2. 論文標題 大洲藩主の獵・狩と献上・領民	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 温故	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中澤克昭	4. 巻 2
2. 論文標題 中世の鷹狩に関する研究の動向と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 39-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 越坂裕太	4. 巻 2
2. 論文標題 第一次モンゴル調査報告 カザフ「騎馬鷹狩文化」と「イヌワシ」祭りを通じて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 65-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 相馬拓也	4. 巻 2
2. 論文標題 『鷲使いの民族誌 モンゴル西部カザフ騎馬鷹狩文化の民族鳥類学』出版のご挨拶に代えて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 81-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 越坂裕太	4. 巻 2
2. 論文標題 内閣文庫所蔵 昌平坂本『元和寛永小説』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 114-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水野裕史	4. 巻 2
2. 論文標題 《大かゞみ絵詞》巻八上	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境建久	6. 最初と最後の頁 85-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水野裕史	4. 巻 3
2. 論文標題 4th International Festival of Falconry 参加記	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境NEWS	6. 最初と最後の頁 3-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武井弘一	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 江戸時代の水田と自然環境 琉球との比較から一	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福田千鶴	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 近世鷹場と環境 福岡藩を事例にー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 19-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水野裕史	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 日本における鷹図・鷹狩図の研究概要と展望ー中国の鷹図を踏まえてー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6. 最初と最後の頁 43-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東昇	4. 巻 68
2. 論文標題 一九世紀前期肥後国天草郡高浜村庄屋上田宜珍の家祖調査 美濃大井の根津甚平と信濃祢津、鷹	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 京都府立大学学術報告 人文	6. 最初と最後の頁 300-331
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東幸代	4. 巻 42
2. 論文標題 近世大浦の船株	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人間文化	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 相馬拓也	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 カザフ騎馬鷹狩文化のイヌワシ捕獲術と産地返還にみる環境共生観の民族誌	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 E-journal GEO	6. 最初と最後の頁 119-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相馬拓也	4. 巻 18
2. 論文標題 騎馬鷹狩文化の起源を求めて：アルタイ山脈にクラスカザフ遊牧民とイーグルハンターの民族誌 (エスノグラフィ)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ヒマラヤ学誌	6. 最初と最後の頁 157-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相馬拓也	4. 巻 2017
2. 論文標題 モンゴル遊牧民のヒューマンエコロジー：アルタイ山脈における日帰り放牧の行動分析とアクトグラフの有効性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 早稲田大学高等研究所紀要	6. 最初と最後の頁 55-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎久登	4. 巻 89
2. 論文標題 鷹場負担と江戸天馬町ー幕府による地域編成を中心にー	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 交通史研究	6. 最初と最後の頁 53-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤昭弘	4. 巻 3
2. 論文標題 幕末佐賀藩の小銃調達と「拝領買」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佐賀学	6. 最初と最後の頁 184-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 水野裕史
2. 発表標題 戦国期鷹図の贈答をめぐる文化構造
3. 学会等名 戦国史研究会第475回例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 兼平賢治
2. 発表標題 馬と鷹からみた盛岡藩の歴史 天下人と将軍が求めた南部馬・鷹
3. 学会等名 盛岡市西部公民館 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 兼平賢治
2. 発表標題 天下人と馬・鷹 徳川将軍が求めた南部馬・鷹
3. 学会等名 秦野市立図書館 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久井貴代
2. 発表標題 「歴史鳥類学」から探る江戸時代のツルの生息実態と人との関わり
3. 学会等名 野生生物と社会学会第25回若手奨励賞受賞記念講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東昇
2. 発表標題 近代京都御猟場から雲ヶ畑猟区への変遷と実態
3. 学会等名 第61回歴史・地理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丸山大輝
2. 発表標題 宝暦～天明期の鷹場と自然環境 熊本藩を事例に
3. 学会等名 2018年度九州史学研究会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤昭弘
2. 発表標題 佐賀藩の鷹狩と低平地
3. 学会等名 低平地研究会歴史・文化専門部会講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水野裕史
2. 発表標題 日本美術に現れた鳥獣表象 鷹を中心に
3. 学会等名 第25回ヒトと動物の関係学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久井貴世
2. 発表標題 歴史資料から探る江戸時代のツルと人との関わり
3. 学会等名 第25回ヒトと動物の関係学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東幸代
2. 発表標題 琵琶湖の内湖と葦地の利用について
3. 学会等名 第4回鷹・鷹場・環境研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 来見田博基
2. 発表標題 鳥取藩池田家の鷹狩と鷹場について
3. 学会等名 第4回鷹・鷹場・環境研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤昭弘
2. 発表標題 佐賀藩における諸獵について
3. 学会等名 第4回鷹・鷹場・環境研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丸山大輝
2. 発表標題 近世初期における「鶴捉之鷹」調教の実態
3. 学会等名 第4回鷹・鷹場・環境研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎久登
2. 発表標題 將軍鷹野御成と江戸の町
3. 学会等名 都市史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 水野裕史
2. 発表標題 Symbol of Power: Japanese Falconry images from the 8th to 17th centuries
3. 学会等名 Raptor and Falconry Depictions throughout the Millennia on a Global Scale at New York University Abu Dhabi (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武井弘一
2. 発表標題 江戸時代の水田と環境
3. 学会等名 第1回鷹・鷹場・環境研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 福田千鶴
2. 発表標題 近世鷹場と環境
3. 学会等名 第1回鷹・鷹場・環境研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中澤克昭
2. 発表標題 中世の鷹狩りに関する研究の現状と課題
3. 学会等名 第2回鷹・鷹場・環境研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森田喜久男
2. 発表標題 日本古代の王権と鷹狩
3. 学会等名 第2回鷹・鷹場・環境研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 相馬拓也
2. 発表標題 カザフ系モンゴル遊牧民のノマディズムと騎馬鷹狩文化のエスノグラフィ
3. 学会等名 立教大学2016年度異文化コミュニケーション学部連続講演会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 相馬拓也
2. 発表標題 アルタイ山脈における「第六の家畜」：カザフ騎馬鷹狩文化が誇るイヌワシ馴化の知と技法
3. 学会等名 日本文化人類学会2016年度学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 相馬拓也
2. 発表標題 イヌワシ：モンゴル西部アルタイ山脈における鷹司とイヌワシとのかかわり
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中野渡一耕
2. 発表標題 七戸藩日記類にみる同藩成立期の諸問題
3. 学会等名 弘前大学国史研究会例会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 伊藤 昭弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 海鳥社	5. 総ページ数 102
3. 書名 青年藩主 鍋島直正	

1. 著者名 相馬 拓也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 244
3. 書名 鷲使いの民族誌	

1. 著者名 岩下哲典、胡光、小田倉仁志、中澤克昭、濱口裕介、林順子、福田千鶴	4. 発行年 2016年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 414
3. 書名 城下町と日本人の心性	

1. 著者名 野田研一、奥野克己、近藤祉秋、山田悠介、山田仁史、北川扶生子、唐戸信基、李恩善、河野哲也、中村邦生、島田将喜、宮澤楓、辻貴志、相馬拓也、菅原和孝	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 391
3. 書名 鳥と人間をめぐる思考 環境文学と人類学の対話	

〔産業財産権〕

〔その他〕

鷹・鷹場・環境研究
<http://www.artsci.kyushu-u.ac.jp/~hhe-kaken/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大賀 郁夫 (Oga Ikuo) (00275463)	宮崎公立大学・人文学部・教授 (27601)	
研究分担者	籠橋 俊光 (Kagohashi Toshimitsu) (00312520)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	東 昇 (Higashi Noboru) (00416562)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	
研究分担者	久井 貴世 (Hisai Atsuyo) (00779275)	北海道大学・文学研究院・准教授 (10101)	
研究分担者	東 幸代 (Azuma Sachiyo) (10315921)	滋賀県立大学・人間文化学部・教授 (24201)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森田 喜久男 (Morita Kikuo) (10742132)	淑徳大学・人文学部・教授 (32501)	
研究分担者	渡部 浩二 (Watanabe Koji) (20373475)	新潟県立歴史博物館・その他部局等・研究員 (83101)	
研究分担者	伊藤 昭弘 (Ito Akihiro) (20423494)	佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・教授 (17201)	
研究分担者	堀田 幸義 (Hotta Yukiyoshi) (20436182)	宮城教育大学・教育学部・教授 (11302)	
研究分担者	江藤 彰彦 (Eto Akihiko) (30140635)	久留米大学・経済学部・教授 (37104)	
研究分担者	兼平 賢治 (Kanehira Kenji) (30626742)	東海大学・文学部・准教授 (32644)	
研究分担者	安田 章人 (Yasuda Akito) (40570370)	九州大学・基幹教育院・准教授 (17102)	
研究分担者	水野 裕史 (Mizuno Yuji) (50617024)	筑波大学・芸術系・助教 (12102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	武井 弘一 (Takei Koichi) (60533198)	琉球大学・国際地域創造学部・准教授 (18001)	
研究分担者	相馬 拓也 (Soma Takuya) (60779114)	京都大学・白眉センター・特定准教授 (14301)	
研究分担者	中澤 克昭 (Nakazawa Katsuaki) (70332020)	上智大学・文学部・教授 (32621)	
研究分担者	岩淵 令治 (Iwabuchi Reiji) (90300681)	学習院女子大学・国際文化交流学部・教授 (32699)	
研究分担者	藤實 久美子 (Fujizane Kumiko) (90337907)	国文学研究資料館・研究部・教授 (62608)	
研究分担者	大坪 舞 (Otsubo Mai) (00781098)	佐世保工業高等専門学校・一般科目・講師 (57301)	
研究分担者	荻 慎一郎 (Ogi Shinichiro) (60143070)	高知大学・教育研究部人文社会科学系人文社会科学部門・教授 (16401)	削除：平成28年8月31日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------